大会スローガン　ウェルビーイングの実現を、川崎の地から ～ 活かそう「縁」の力 ～

メインテーマ
- 社会の大きな変化を学び、進化を考えるPTA活動
- 自己肯定感を高め合い、活力あるPTA活動
- 誰も取り残さない、居場所を大切にするPTA活動

第72回日本PTA全国研究大会 第56回関東ブロック研究大会 川崎大会

8月23日（金）・24日（土）とどろきアリーナにて開催！

日本PTA

発行所
〒107-0052
東京都港区赤坂7丁目5番38号
公益社団法人
日本PTA全国協議会
発行人　太田　敬介
電話 03(5545)7151
FAX 03(5545)7152
ホームページアドレス
https://www.nippon-pta.or.jp/

この二次元コードをスマートフォンなどで読み取っていただきますと、日本PTA全国協議会のホームページにアクセスできます。

企画編集協力
日本教育新聞社

綱　領

本会は、教育を本旨とし、特定の政党や宗教に偏ることなく、小学校および中学校におけるPTA活動を通して、わが国における社会教育および家庭教育の充実に努めるとともに、家庭、学校、地域の連携を深め、児童・生徒の健全育成と福祉の増進を図り、もって社会の発展に寄与する。

令和6年8月23日(金)・24日(土)の両日にわたり開催された川崎大会は、大会初となる全国の参加者が一つの会場「とどろきアリーナ」に集い、日本PTAの「縁」により得た繋がりを通じてウェルビーイングの大切さを、社会に伝え広げる意義深い大会となりました。

会場となった「とどろきアリーナ」に入場してまず目に飛び込んでくるのが会場中央に設置されたステージ、360度全方向型の開放感あふれる会場の雰囲気に参加者の期待感も最高潮。

今回の川崎大会では、別々の会場での分科会ではなく、参加者が一堂に会し、隣席の参加者同士でグループとなり、それぞれの思いをシェアするという初の試みで開催されました。

川崎大会を終えて

川崎大会実行委員長
浦山 利博 氏

令和6年8月23日と24日の2日間にわたり、第72回日本PTA全国研究大会・第56回関東ブロック研究大会川崎大会を開催いたしました。皆様のご参加とご支援および素晴らしい先生方と川崎市ならびに実行委員の方々に深く感謝申し上げます。

本大会は、「ウェルビーイングの実現を、川崎の地から～活かそう「縁」の力～」のスローガンのもと、家庭・学校・地域にとPTAの縁が紡ぐ道を通じて、ウェルビーイングを社会に広げることを掲げました。そのため、参加者全員が共に学べる一会場開催、全周囲と受発信が出来る中央ステージ、ただ聴くだけではない参加者間のディスカッション、多くの現職教職員のご参加、そして自分事としての個人宣言など、新しい形を取り入れました。併せてDX活用等によるコスト低減にも配慮いたしました。

お陰様で、たくさんのご好評とそれぞれの行動に繋がるご感想を頂くことが出来、改めて全国大会の意義を噛み締めております。

私たちの活力源は何にもまして子供たちの笑顔です。子供たちの喜びもまた大人の笑顔でしょう。常にこの原点を忘れず、学んだ4つの幸福因子「ありのままで、ありがとうの心で、何でもやってみよう、何とかなるよ～」を、一緒に実践して、子供たちが、明るく生きる強い力と公徳心に満ち溢れ、それぞれの道や方法で社会に羽ばたくことを支えて参りたいと存じます。

会長あいさつ

公益社団法人
日本PTA全国協議会
太田 敬介 会長

令和6年度、公益社団法人日本PTA全国協議会会長を拝命しました太田敬介（おおた・ケイいすけ）と申します。

先般、日本PTAの元役員が逮捕されたことにつきまして、全国のPTA会員、教育関係の皆様にご心配とご迷惑をおかけしておりますこと、心からお詫び申し上げます。今後、再発防止に向け、内部ガバナンスの徹底した強化を図ってまいります。

PTAの始まりは、戦後、当時の文科省から「父母と先生の会－教育の民主化のために－」というPTA結成の手引書が全国の都道府県知事宛に発出されたところまで遡ります。そこから全国各地で一斉に設置が進み、わずか1年という期間でその設置率は全国の小・中学校の7割近くに達しました。情報伝達手段は現代と比べようもなかったあの時代において、なぜPTAは、こうもあっという間に全国各地で一斉に立ち上がっていったのでしょう。そこには、平和な日本を求め、自分たちの幸せを願い、守り育てていこうという主体的な意思、希望や優しさで溢れ、且つ情熱的で揺るがない思いを感じざるを得ません。

昨年、日本PTAは創立75周年を迎えました。75年という歴史と実績を積み上げ、日本教育の民主化に大きな貢献を果たしてきました。これまで培った先人たちの様々な努力が、今日の各教育制度につながっていることは決して忘れてはいけません。その一方で、社会の変化の速度はますます急激になり、加えて物事の不確実性が高く、将来の予想が困難な時代だと言われています。そうした社会の中で必要とされるPTAであるために、私たちは問いを立て続け、変化を遂げていくことが求められています。

日本PTAはこれからも創立の思いに心を寄せ、時代に応じた変化を恐れることなく、持続可能な組織へと成長し続けて参ります。あわせて、全国のPTAの仲間の皆様とつながりながら、家庭・学校・地域の連携を深め、社会の発展に寄与するため邁進して参ります。皆様からのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

主な内容

1～5面
- ○川崎大会・太田会長挨拶・浦山実行委員長「川崎大会を終えて」
- ○来賓あいさつ・司会者紹介
- ○特別第1・特別第2・基調講演・セッション1
- ○セッション2・セッション3・展示会場紹介
- ○記念公演・石川大会アピール・大会宣言

6・7面
- ○定時総会のまとめ
- ○新役員の意気込み

8面
- ○広報紙コンクール入賞校一覧
- ○推薦商品一覧
- ○石川大会告知

ご臨席いただいた来賓からのあいさつ

川崎大会開会行事の様子

無限の可能性があるんだということが私たち川崎市民の誇り

川崎市長
福田紀彦 氏

皆様こんにちは。川崎市長の福田紀彦と申します。

日本ＰＴＡ全国研究大会がこの川崎市で開催されますことに心からお慶びと歓迎を申し上げます。ようこそ川崎市にお越しくださいました。

さて、このとどろきアリーナ、等々力緑地ですが、子供たちにとって、ここは晴れの舞台となるところであります。さまざまなスポーツ競技において、特に中学生は、川崎一を決める大会がこの場所で開催されます。甲子園までとは言いませんが、ここで自分のベストを尽くすという晴れの場所、そのような場所に、子どもたちの幸せを思って日々活動していただいている皆さんをお迎えできて、本当にうれしく思っています。

川崎市ＰＴＡ連絡協議会の皆さんは、様々な行政活動にご協力をいただいておりますが、お願いや要望だけでなく、まさに子供たちの幸せを一緒に考えて、行動していただいている集団の皆さんです。おそらく、今日ここにお集まりの全ての皆さんも、全国各地でその活動を日々やっておられる。その地道な活動に心からの感謝と敬意を表したいと思います。ぜひ、色々なことに負けずに、全ての子供たちのために、自信を持って前に進んでいっていただきたいと思っています。

この川崎大会は、浦山実行委員長のさまざまな豊かなアイデアで、工夫がされていると思います。皆さんのリストバンドを見ますと7色の色があり、それぞれ異なる色でチームを作ると聞きました。

私たち川崎市は、今年100周年を迎えています。100年前は、5万人にも満たない街でしたが、今は155万人にもなりました。それだけに、皆さんの何らかの親戚やお友達など、川崎に関係する方がいらっしゃるのではないかと思います。それぐらい全国の方たちが川崎に来て、この街が発展してきました。まさに多様性の街なのです。

この川崎市のロゴマークは、川崎の川という漢字が光の三原色、赤・緑・青となっており、これには意味があります。光の三原色は混ぜ合わせることによって無限の色をつくり出します。無限の可能性があるのだということを、私たち川崎市民は誇りに思うということで、敢えて使っているのです。今日お集まりの皆さんも、いろいろな地域の方が、いろいろな考え方を持っています。ただ目的は1つ、子供たちのためにというその目的のために、いろいろなアイデアを出し合って、由々しき時代ではありますが、いろいろな知恵を出し合って価値を見出していく、そのような大会になることを、心から期待しています。

今年は川崎で、そして来年は石川県で開催されると聞きました。ぜひ大会二日間、実りのあるものとなって、来年は被災地となっている石川県で、子供たちに元気を届けて、そして元気な石川県の子供たちの姿を全国に発信する。そのようなステップとなる大会になることを、心から祈念しています。

二日間の大会の成功を心から祈念して、あいさつに代えます。皆様、ようこそおいでくださいました。ありがとうございました。

100周年を迎えた川崎市の街への想いとＰＴＡへのエールを熱く語る福田市長

ＰＴＡ活動を通じて子供たちの成長を地域全体で支える社会の実現に！

文部科学省総合教育政策局
社会教育振興総括官
平野 誠 氏

令和六年度　第七十二回日本ＰＴＡ全国研究大会が、ここ川崎市にて盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

まず、本大会の開催にあたり、御尽力いただいた公益社団法人日本ＰＴＡ全国協議会、関東ブロックＰＴＡ協議会、川崎市ＰＴＡ連絡協議会をはじめ、川崎市の教育委員会関係の皆様の多大なる御支援によって、全国のＰＴＡ関係者が一堂に会し、今日的課題について研究を深める機会を作っていただきましたことに、厚く御礼を申し上げます。

また、御参集の皆様方におかれましては、日頃からＰＴＡ活動を通じ、学校・家庭・地域の架け橋として、子供たちの健全育成に御尽力いただいておりますことに、深く敬意を表しますとともに、心より感謝を申し上げます。

家庭や学校、社会の関わり方が変わっていく中で、文部科学省としては、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に取り組むとともに、休日の部活動の地域連携・地域移行に向けた環境の一体的な整備を進めています。

皆様におかれましても、ＰＴＡを取り巻く環境が変化する中で、オンライン会議の導入など、効率的な運営を実施し、ＰＴＡ活動の充実に取り組まれていると伺っております。各地域の実情に応じたＰＴＡ活動を通じて、子供たちの成長を地域全体で支える社会の実現に向けて、引き続きお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、本大会のご盛会並びに公益社団法人日本ＰＴＡ全国協議会のますますの御発展と皆様のより一層の御活躍を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

地域全体で支える社会の実現をと語る平野氏

川崎大会の進行役を務めていただいた司会者お二人のプロフィール

堀潤 氏

NPO法人8bitNews代表理事／株式会社GARDEN代表／
社会教育振興総括官

1997年兵庫県生まれ。立教大学文学部ドイツ文学科卒業後、2001年NHK入局。アナウンサーとして「ニュースウォッチ9」リポーター、「Biz スポ」キャスター等、報道番組を担当。2012年市民ニュースサイト「8bitNews」を立ち上げる。2013年4月1日付でNHKを退局。現在は、ジャーナリスト・キャスターとして独自の取材や報道・情報番組、執筆など多岐に渡り活動している。淑徳大学人文学部客員教授。「For bes Japan」オフィシャル コラムニスト。2019年から、早稲田大学グローバル科学知融合研究所招聘研究員に就任、SDGsフロンティアラボで官民の枠を超えたイベントや情報発信を企画している。2020年、自身で監督、出演、制作を行った映画「わたしは分断を許さない」を公開。

塩沢 節子 氏（ファシリテーター）

幼児園チューリップルーム園長

山形県出身。保育士歴35年。長女の育児に悩みアドラー心理学子育てを学び、「大人も子供尊重できる保育をしたい」と一念発起。1996年、「わが子を通わせたい園がナイなら作っちゃえ！」と、川崎市宮前区の自宅で、幼児園チューリップルーム開園。現在開園26年目。「子供だから」「子供のケンカに親は出るな」が通らなくなっている現在、子供の自立を軸に、親心に寄り添いながら、笑って、泣いて、ケンカしての子供の世界を保障するというチューリップ独自の子供の保育と、お母さんと共に学び育ち合う園を運営中。GFB合同会社を設立し、チューリップルームの他に小規模保育園を３園経営。書籍にマツダヒロミ氏共著「子供の考える力を伸ばす魔法の質問」（PHP出版）

■チューリップルームでは次の３つを大切にしています。
〇自分で決める～自ら考え動く子供〇感情を出し切る～心、豊かな子供
〇体験すること～意欲のある子供

特別第1
日本PTA担当

研究課題
全国のPTAの縁をいかし 力強く進める 教育環境改善への提言

PTAの真の役割とは。ウェルビーイングな社会教育の促進

視点・要旨

①教育など社会のウェルビーイングとは何かを学ぶ。
②社会的視点から日本PTAが目指すPTA本来の役割とウェルビーイングを学ぶ。
③日本PTAと関係省や協議会との連携、協議会間連携、社会への発信の促進など、時代を見据えたPTA活動の進歩と進化の方向を考える。

特別第1では講師の内田由紀子氏と太田会長が登壇し、共に意見交換をしながら進められました。

人は、いつの時代も幸福を求めてきました。今日においては、個人や家庭だけでなく、教育・経済・厚生など社会の様々な分野における、より包括的な幸福、すなわちウェルビーイングが求められています。

360度のステージに緊張気味の太田会長

日本PTAもまた、国内最大の社会教育関係団体として、長く国の教育政策への提言や各協議会への研修・周知・連携に努めてきました。しかし、昨今、人や社会の様相と価値観は大きく変化し、PTAの意義に対する認識が揺らぎつつあるなか、本大会で初めて全参加者が聴くことのできる機会を生かし、日本PTAが目指すウェルビーイングとは何か、その真の役割とは何なのかを発信し、今後の進歩と進化につなぐことを共に考えるきっかけとなったと思います。

参加者の意見を確認する内田氏

■講師
内田 由紀子 氏

京都大学こころの未来研究センター教授。専門は文化心理学・社会心理学。1998年、京都大学教育学部教育心理学科卒業。2003年、京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了。博士（人間・環境学）。ミシガン大学、スタンフォード大学の客員研究員等を経て、2008年より京都大学の教員として研究活動に従事、2019年より教授、2023年より研究院長。国際的な研究活動とともに、2010年から2013３年まで内閣府「幸福度に関する研究会」委員。日本のウェルビーイング政策にも携わる。2014年「たちばな賞」（京都大学最優秀女性研究者賞）、2016年日本心理学会国際賞（奨励賞）受賞。

特別第2
文部科学省協力、地域連携・人権教育

研究課題
大人が変われば子供も変わる！ ウェルビーイングの社会実装

学び保障の政策を社会に根付かせることの大切さ

視点・要旨

①子供たちの学びの場の現状と未来の問題と課題を知る。
②誰も取り残さない教育政策を知る。
③その草の根的な社会実装の実例を学び、子供たちの「生きる力」を育むPTAの役割について考える。

近年、児童・生徒の様々な問題が増加し、文部科学省は子供たちの「生きる力」を育むという目標で学習指導要領を制定しています。これは「生きる力」を学び、先の人生につなげて欲しいというウェルビーイングの思いで制定されました。

学校に通いたくとも通えない子供たちも多くおり、このようなよい政策は、社会への実装と浸透とが求められます。児童生徒課土屋美樹係長から、文部科学省の不登校児童への対策の紹介から始まった特別第2では、吉田田タカシ氏が自己紹介を通じて子供たちの「生きる力」を育む社会づくりへの取り組みを語られ、登校拒否の問題は子供にあるのではなくて大人の方に問題があるとの思いから、大人が意識を変えるためのムーブメントとして登校拒否ならぬ「トーキョーコーヒー」を立ち上げて2年間で400拠点に拡大したことが報告され、「安心」と「自信」が教育の土台でなければならないと訴えられました。

学校に通いたくとも通えない子供たちを含め「生きる力」を育む場を作り、まず大人たちがそこに参加して楽しむ姿を子供たちに見せることも大切です。

講演後にはパネリストに西野博之氏が参加してトークセッションも行われました。

■講師
土屋 美樹 氏
文部科学省初等中等教育局
児童生徒課 生徒指導第一係長

令和2年に法務省に入省後、保護局や大臣官房に在籍し、主として更生保護の観点から、再犯防止に係る企画の立案等の業務に携わる。法務省の出先機関である保護観察所において、社会内処遇の専門家である保護観察官の立場から、過去に犯罪や非行を行った者に対して、社会内での立ち直りに向けて指導・支援を行う。本年4月から文部科学省に出向し、「誰一人取り残されない学びの保障」に向けて、主に事業設計の観点から不登校対策施策に携わっている。

■講師
吉田田 タカシ 氏
アトリエe.f.t.代表／
トーキョーコーヒー代表

1977年生まれ。兵庫県出身、奈良県在住。1998年、大阪芸術大学在学中に美大受験の予備校としてアトリエe.f.t.を創業。同時にスカロックバンド・DOBERMAN（ドーベルマン）を結成し、関西のスカシーンを代表するバンドとして大規模フェスへの出演や海外アーティストとも共演するなど、その名を全国に轟かせる。アトリエe.f.t.は徐々に青年の創造性を育成する教育方針に転換し、2017年には生駒校を開校。一方で医療大学での講義や放課後デイサービスの解説なども行い、多岐にわたる活躍を見せている。二児の父。
〇登校拒否じゃない「トーキョーコーヒー」。大人が楽しく学びあう拠点は全国約250カ所。教育システムを進化させるムーブメントを主導。〇つくるを通していきるを学ぶ「アトリエe.f.t.」。大阪校と生駒校に約200人の生徒が在籍。〇「まほうのだがしやチロル堂」共同代表。地域の子供を支える仕組みが2022年グッドデザインアワード大賞を受賞。

全体基調講演
研究課題
誰もが幸せに暮らせる社会の実現に向けて

全ての子供たちに「生まれてくれてありがとう」を届けよう！

視点・要旨

①急速な社会変化における家庭・学校・地域と社会の様相を知る。
②特1を受け、特2へと繋がる基調講演であり、PTAの原点である子供たちを慈しむ心が家庭・学校・地域へと広がり、社会のウェルビーイング実現へと向かっていくことを学び考える。

大人が大丈夫を手に入れれば大丈夫と語る西野氏

保護者にとって最も大切なものは、紛れもなく子供たちです。しかし、日本の子育て環境は、学力の競争で他と比べたり経済的な負担だったりと保護者や子供たちに厳しさを強いる面があります。学校だけでなく、家庭やその他の場所で生きづらさに直面する子供たちが増え、同様に感じている大人も増えています。これは、全世代におよぶ課題です。

小学2年生でいじめのピークが始まるというデータがあります。命に係わるいじめにより自殺者が年に500人を超える現在。その要因は子供たちの自己肯定感の低さにあると言います。保護者の「ちゃんと」という言葉で子供が家庭で弱音を吐けないで居るのです。学校に行けないだけで命を絶つ子供が居る。不登校支援は親支援が最も大事だと考えます。大人が大丈夫を手に入れれば大丈夫なんです。生まれてきただけでも奇跡なのですから、子供たちに「生まれてくれてありがとう」を届けたいものです。

川崎市は子供権利条例を日本で最初に総合条例として作成されました。その条例の報告会の席で子供たちの代表が語ったのは「まず大人が幸せに居てください。大人が幸せじゃないのに子供だけ幸せにはなれません」だったのです。

■講師
西野 博之 氏
NPO法人フリースペースたまりば理事長／
前川崎市子ども夢パーク所長

川崎若者就労自立支援センター「プリュッケ」総合アドバイザー。精神保健福祉士。全国的に活躍する神奈川大学非常勤講師。1960年東京・浅草生まれ。1986年より不登校児童・生徒や高校中退した若者の居場所づくりにかかわる。1991年、川崎市高津区に「フリースペースたまりば」を開設。不登校児童・生徒やひきこもり傾向にある若者たち、様々な障がいのある人たちとともに地域で育ちあう場を続けている。2003年7月にオープンした川崎市子ども夢パーク内に、川崎市の委託により、公設民営の不登校児童・生徒の居場所「フリースペースえん」を開設。2006年4月からは、指定管理者として子ども夢パーク全体の管理・運営にあたっている。全国に先駆けて川崎市で2000年に制定された「子どもの権利に関する条例」には調査研究員会の世話人として策定に関わり、制定後も条例の影響・成長を見守るかかわりを続けている。

セッション1
今日的課題・社会教育
研究課題
多様性を認め合う 心豊かな社会を目指して

違いに気付きワクワクする人間関係が活動の力に！

視点・要旨

①講演での学びを自分のことに引き寄せて考えるために必要なこととは。
②今を生きる大人たち・子供たちに必要な多様性を認め合う考え方・学びとは。
③PTA活動に大切なこと、PTAだからできること、社会に貢献できることとは。

参加者の視点で語り掛ける上村氏

今日、私たちの身の回りで起きている問題の原因の一つとして、一人ひとりの違いを受けとめずに対立してしまうことが挙げられます。「多様性」や「一人ひとり違っていい」という言葉をよく耳にしますが、違う環境で育ち、違う経験をしてきたのだから違う価値観を持っていて当然ということを改めて理解し、違う価値観を持つ相手を受けとめることが、良好な人間関係づくりの第一歩となります。殊に、講演等を通じて知り考えたことを活動に生かそうとするとき、大きな活力源になるのではと思います。

「討議の視点」や「討議の進め方」の内容を通じて、本大会の「縁」を感じつつ、お互いが「そうなんだね」と尊重し合える対話を楽しみながら体験し、誰もが心理的安全性と活力のあるPTA等の場づくりにつなげて行ければと思います。

■講師
上村 和弘 氏
しつもん
メンタルトレーニングトレーナー

元川崎市宮前区PTA協議会会長、元川崎市立犬蔵中学校・犬蔵小学校PTA会長。ITエンジニアとして働きながら、少年サッカーコーチやPTAなど、地域コミュニティに関わる。子供たちへの指導では「教えないコーチ」を自負し、楽しむこと・人間力向上を大切にしている。PTAでは、学校→区→市へと活動範囲を広げ、しつもんメンタルトレーニングの10ヶ条をベースに一人ひとりが自分らしくあることの大切さを実践している。

第56回日本PTA関東ブロック研究大会

セッション2 家庭教育

研究課題

子供たちと一緒に自己肯定感を高め合う 家庭教育の大切さ

子供たちへの報酬は「ほめること」。もっと親力を発揮しよう！

視点・要旨

①子供の自己肯定感を高めることは自分を高めることを知る（家庭教育の意義）。
②日頃の子供との向き合い方を見つめ、問題・課題を考える。
③自宅に帰って子供と接する真の温もりに思いを馳せる。

自身の体験を通じて家庭の幸せがウェルビーイングにつながるとクローラン氏

子供たちとの縁で織り成す家庭の幸せ、いわばウェルビーイングを実感したい保護者は多いはずです。子供への報酬は「ほめること」。それが自己肯定感を高め、保護者自身の心も豊かにして行きます。それは、今だけでなく未来へ、学校・地域・社会のウェルビーイングへとつながって行くことでしょう。心から子供たちを抱きしめたいと思える、そんな時間を共にできたのではないでしょうか。

子供たちは褒められることに大きな喜びを感じるものです。そのような子供たちの自己肯定感を高める方法に「ほめ写」という家庭でできるものがあります。これは、子供たちとの写真を用意して一緒に飾り付け、「あのときは頑張ったね～、楽しかったね～」と振り返ることで、絆と自己肯定感を高め合うというものです。

以前にワークショップを開いた折、参加した保護者から「子供を褒めたことがない」という感想が少なからずあり、ときの講師共々たいへん驚いたことがあります。共働き世帯が増え日々の忙しさの中で、自分の子供たちにすら向き合うことが疎かになっているのではないか。その分、大人たちの心も貧しくなっているのかも知れません。

参加者の拍手に応えて両手を大きく広げて登壇する親野氏

■講師
親野 智可等 氏
教育評論家

教育評論家。本名は杉山 桂一。公立小学校で23年間教師を務め子供に与える影響力の大きさを痛感。経験と知識を少しでも子育てに役立ててもらいたいと、メールマガジン「親力で決まる子供の将来」を発行。たちまち評判を呼び、各メディアで絶賛される。子育て中の親や教師の圧倒的な支持を得て、メルマガ大賞の教育・研究部門で５年連続第１位に輝いた。読者数も４万５千人を越え、教育系メルマガとして最大規模を誇る。人気マンガ「ドラゴン桜」の指南役としても知られる。退職後の現在は、全国各地の小学校、幼稚園・保育園、市町村で保護者、教師を対象に教育講演会を精力的に行い、全国的に活躍する人気講師である。『「親力」で決まる！』（宝島社）、『「叱らない」しつけ』（ＰＨＰ研究所）などベストセラー多数。

■講師
クローラン 悦子 氏
maman'muse主宰／
ほめ写アンバサダー／
アルバム大使マスター／
筆跡診断士２級アドバイザー

２００２年、株式会社ジオス入社。福島県内５校の管理責任者や５カ国の海外出張を経験。学校運営（経営）のノウハウ、語学、対外的な営業とカウンセリングを学ぶ。平から管理職まで経営のノウハウ、学校運営を任され基本から応用までを学ぶ。２００５年、ジオス退職後、３度の渡米、２００６年より３年間、派遣会社を通して76企業で働く。２００９年、株式会社ドッポに入社。２０１１年、取締役社長室長に就任。２０１４年、株式会社ドッポ退社後にアルバムカフェを開設。今後は、アルバムカフェを軸に心と体の健康やいろんなジャンルの方と「横のつながり」を主体に考えたイベントやコラボ企画を計画中。

セッション3 学校教育 地域連携

研究課題

地域や社会に広げるウェルビーイング！ 住み続けたいまちへ

全国大会ならでは！各ブロック大会等の活動事例から共に学ぼう

視点・要旨

①学校を好きになり、地域を愛する効用。
②学校・地域・行政との連携。
③動画の制作・共有で学んだことをどのように活かすのかを語り合う。

ウェルビーイングの実現に向けての想いを語る親野氏

各ブロックでは、毎年、大会を開催し、参加協議会の様々なＰＴＡ活動の実践発表を行っています。しかし、その全容が全国規模で充分知られる機会はあまりありませんでした。

そこで、本大会では、各ブロック等から代表的な実践発表内容を提供頂き、動画に編集して上映することで共有し、全国大会ならではの意義を一層深める〝縁〟となることを願って取り組みました。

家庭・学校・地域における全国の様々なＰＴＡ活動を互いに知ることにより、ＰＴＡの縁から始まる社会のウェルビーイングの実現に向けて、活動の活性化と行動を広げ、私たちや子供たちが学校・地域・行政とタッグを組んだ住み続けたいまちづくりを考える契機となったと思います。

■パネリスト
宇田 直人 氏
（石川県ＰＴＡ連合会会長・日本ＰＴＡ全国研究大会石川大会実行委員長）
親野 智可等 氏
（教育評論家）

2日目の午前8時半から開催された関東ブロック大会では、浦山実行委員長のあいさつ、感謝状贈呈の後、次期開催地の長野県ＰＴＡ連合会によるアピールでは、長野県ＰＴＡ連合会・城村会長のあいさつ、各分科会の紹介に続き、熊谷実行委員長が熱い想いを語りました。長野県ＰＲキャラクター「アルクマ」も会場に駆けつけてくれ、参加者の皆さんを癒やしてくれました。

熊谷実行委員長に関東ブロック旗が手渡された

長野県ＰＴＡ連合会・城村会長のあいさつ

第57回日本PTA関東ブロック研究大会

ながの大会

2025年10月18(土)・19(日)開催

【スローガン】
「結<ゆい>」笑顔で未来をつくる
～子どもと一緒にウェルビーイングの実現を信州から～

長野県ＰＲキャラクターのアルクマも登場

展示ブース

展示ブースでは、川崎市政100周年の歴史を辿る展示や本大会に参加していただいた講師の方々の活動を紹介する展示などで大盛況となりました。

記念講演
今日的課題・人権教育

研究課題

ウェルビーイングを社会に広げることの大切さ

学びを振返り、今こそ一歩踏み出す決意の瞬間を楽しもう！

視点・要旨

①社会のウェルビーイングの大切さを再確認する。
②個人の小さなアクションと仲間や周囲との協調が大きな力となることを理解する。
③今日から次の一歩を踏み出すことを考え決意し、行動に結び付けることを目指す。

ステージ上をゆっくり回りながら参加者に語り掛ける前野マドカ氏

教育分野は勿論のこと様々な社会の分野において、ウェルビーイングな状態が求められている時代です。各地域におけるＰＴＡ関係者の占める人口比率は決して少なくなく、社会に対する役割に大きな期待が寄せられています。

しかし、ＰＴＡの現場では、必要な活動や運営を進める上で問題や課題に遭遇することが多々あります。たとえ改善・改革のためであっても、現行を変更するには非常な心理的・物理的エネルギーを要するのもまた事実でしょう。一人ひとりが新たな一歩を踏み出す力を身に付け、強い心で進むことは、「大人たちと子供たち、社会のウェルビーイング実現」に向かうために必要なことだと考えます。

さらなる一歩を踏み出せる自分の存在と、ＰＴＡの縁を生かして活動する価値とを再発見し、明日の活力源となることを願い講演されました。

新たな一歩を踏み出すことの重要性を語る前野氏

■講師
前野 マドカ 氏
EVOL株式会社 代表取締役CEO

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属システムデザイン・マネジメント研究所研究員。国際ポジティブ心理学協会会員。サンフランシスコ大学、アンダーセンコンサルティング（現アクセンチュア）を経て現職ＥＶＯＬ株式会社代表取締役ＣＥＯ。ＰＴＡにおけるウェルビーイング講演など幸せを広めるワークショップ、コンサルティング、研修活動及びフレームワーク研究・事業展開などを行なっている。

川崎大会開会行事の来賓者の方々

平野　誠	文部科学省総合教育政策局・社会教育振興総括官
西　明夫	文部科学省総合教育政策局 地域学習推進課・家庭教育支援室長
岡本 真穂	文部科学省総合教育政策局 地域学習推進課・家庭教育振興係
福田 紀彦	川崎市長
青木 功雄	川崎市議会・議長
小田嶋 満	川崎市教育委員会・教育長
松原　修	全国連合小学校長会・会長代理
清野　正	全日本中学校長会・総務部長
山﨑 篤史	全国国公立幼稚園・こども園PTA連合会・会長
宮本 昌尚	一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会・副会長
常盤　隆	公益社団法人日本教育会・専務理事
井藤 直美	公益財団法人日本教育公務員弘済会神奈川支部・支部長
川村 雅昭	川崎市立小学校長会・会長
松田 宇宙	川崎市立中学校長会・副会長
稲葉　武	川崎市立特別支援学校長会・会長
廣田 健一	川崎市PTA連絡協議会 歴代会長会・会長
東川 勝哉	公益社団法人 日本PTA全国協議会・第38代会長
後藤 豊郎	公益社団法人 日本PTA全国協議会・第42代会長

第73回 日本PTA全国研究大会
第81回 日本PTA東海北陸ブロック研究大会

石川大会のアピール

2025年8月22日（金）・23日（土）開催

本年元日に能登地方を震源とする能登半島地震の発災直後より、全国の皆さまから、温かい励ましのお言葉をいただきました。公益社団法人日本ＰＴＡ全国協議会を通じて支援金をお寄せいただいた皆さま、直接石川県ＰＴＡ連合会に支援金をお寄せいただいた皆さまに厚く御礼申し上げます。石川県ＰＴＡ連合会では、お寄せいただいたお気持ちを具体的な形にすべく、ＰＴＡだからこそできる支援活動に努めて参ります。

当初は開催延期または中止の意見もありましたが、能登地区の会員から全国大会にはできる範囲内で協力したいとの話があり、被災した会員に十分配慮した上で、全国大会を開催することに決定いたしました。

震災に負けじと元気いっぱいにアピールする石川県PTA連合会のメンバー

宇田実行委員長に日本PTA全国協議会旗が手渡された

参加者に熱く訴える
宇田直人・石川大会実行委員長

大会宣言

私たちは、未来を担う子どもたちを慈しみ、見守り、支えていきたいという想いを抱き、様々な「縁」によって繋がった社会生活を営んでいます。自分の生きる道だけでなく、家族や友人、学校や住む地域、それぞれの幸せのあり方に思いを馳せるウェルビーイングの大切さを、「縁」が織りなす繋がりを通じて、社会に伝え広げることを目指し、「ウェルビーイングの実現を、川崎の地から～活かそう「縁」の力～」のスローガンのもと、第72回日本ＰＴＡ全国研究大会川崎大会を開催いたしました。

本大会では、一つの会場に集い、様々な分野に及んで大きく変化する様子とその本質とを学び、一人ひとりがＰＴＡの「縁」を感じながら、家庭・学校・地域のウェルビーイングの実現を目指して行くことを、個々人のアクション・プランに掲げました。

今、これらを実践して、よりよい子供たちの教育環境づくりと、一層活発なＰＴＡ活動とを全国的に推進していくことを宣言し、次のとおり決議します。

決　議

一、社会の大きな変化を学び、進化を考えるＰＴＡ活動を推進します。
一、自己肯定感を高め合い、活力あるＰＴＡ活動を推進します。
一、誰も取り残さない、居場所を大切にするＰＴＡ活動を推進します。

２０２４年８月24日第72回日本ＰＴＡ全国研究大会川崎大会

第72回 日本PTA全国研究大会 川崎大会に参加した参加者の声

各講演セッションでグループに数分のトークタイムが設けられ、聞くだけではなく自分達で意見や思ったことを言葉にして互いにシェアし合えたのがよかった。

グループメンバーのそれぞれの都道府県により違いがあり、驚きとともにとても良い経験ができました。

二日間を通して、講師の方々の貴重な意見を聞くことができて「ウェルビーイング」についての思いが深まりました。

定時総会にて、太田敬介氏が新会長に選任

「令和６年度定時総会」を６月19日に国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催しました。

来賓挨拶をする
あべ俊子副大臣

文科省よりあべ俊子副大臣をはじめ、総合政策局より望月禎局長と地域学習推進課・高木秀人課長を迎え、全国61協議会の内57人の各会長が参加して行われました。

来賓挨拶としてあべ副大臣は、「文科省では、地域の実情に応じて学校・家庭・地域の連携を深める取り組みを推進しており、子供たちの成長を地域全体で支える社会の実現に向けて力添えをいただきたい」と日Ｐへの要望を述べられました。

当日行われた理事会において新役員が決定し、鹿児島県ＰＴＡ連合会の太田敬介氏が新会長に選任され、「子供たちの健全育成と福祉の一層の増進を図り、社会の発展に寄与する」との抱負を語りました。

また、翌20日には研修会が開催され、講師として文科省より、地域学習推進課・高木秀人課長、初等中等教育局から財務課・鈴木文孝企画官、学校情報基盤教材課・寺島史朗課長と全国連合小学校長会対策部長の松原修氏（武蔵野市立第二小学校長）を招いて行われました。

※役職は定時総会開催時のものです。

新会長に選任されたことを
報告する太田会長

令和６年度定時総会におけるご来賓一覧

あべ　俊子 氏	文部科学省・副大臣
望月　禎 氏	文部科学省総合教育政策局・局長
高木　秀人 氏	文部科学省総合教育政策局地域学習推進課・課長
中村　豊 氏	日本教育会・事務局長
植村　洋司 氏	全国連合小学校長会・会長
冨士道　正尋 氏	全日本中学校長会・事務局長
森川　誠 氏	一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会・副会長
松野　博文 氏	全国公立学校教頭会・会長

令和6年度新役員の意気込み

副会長　中村（なかむら）　総一郎（そういちろう）

この度、副会長の任命を受けました中村総一郎と申します。

子供たち、先生方をとりまく環境が急激に変化する中、日本PTAでなければ果たせない役割は何かを皆さんとともに考え、行動に移していきたいと思います。

私自身が考える日本PTAのミッションは、

1、協議会代表者の情報交換、共有の場を設けること
2、行政機関(文部科学省等)へ、各協議会の現状と提案を伝え、また行政機関からの情報をタイムリーにフィードバックすること
3、日本PTA全国協議会のスケールメリットを活かした公益事業を精選し、効率的に実施すること

公益事業部門では「調査研究事業」を担当します。各協議会の皆様へ、アンケートのご依頼を申し上げることになりますが、こちらについてもお力添えを賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

副会長　丹羽（にわ）　寛美（ひろみ）

今年度、副会長に就任しました丹羽寛美です。理事としては2年目になり、やっと日Pが少しずつわかってきたように思います。

今年度は、より全国のPTA会員の皆さんに寄り添った活動ができるよう尽力していきたいと思っております。

私はこのPTA活動を通じてさまざまな繋がりをいただきました。この活動がなかったら絶対に知り合えなかった方、また知ることができなかった繋がりができ、本当にありがたいなと思っております。それは各学校や地域においてもそうなのではないでしょうか。私自身、地域で生活する上でこういった繋がりがあるからこそ、子供たちも守られ、育てていけるんだと感じています。そんな私の心が安定していると子育てにも余裕ができ、笑顔で過ごすことができると思っています。そのためにもたくさんの方々と繋がり合い、私は一人じゃないということを感じながらこれからも活動していきたいと思います。今年度もどうぞよろしくお願い致します。

副会長　比嘉（ひが）　里奈（りな）

令和６年度、副会長を務めさせていただくことになりました、比嘉里奈です。

副会長の職務は、会長を補佐しこの法人の業務を執行することにあります。同時に、理事としても、定款並びに総会及び理事会の決議を遵守し、この法人のために忠実にその職務を遂行いたします。

私は、現在、子供たちを取り巻く諸問題は、子供たちが将来大人となる際の手本となるべき大人が、手本となり得ていない大人の社会問題に起因していると思っております。社会構造の変化に伴うモラルの低下や自己中心的な人間関係の在り方などが、子供たちの目にどのように映っているのでしょうか。自らの言動を振り返り、社会問題や人間関係などを学べる本会が、一層重要な役割りを担えると思っております。

また、法人運営・公益目的事業の表彰事業を担当する他、文部科学省や法務省の会議などにも出席いたしますので、さらに、知見を得ると共にPTAの保護者の立場から意見を交わしていきます。

理事　山下（やました）　泰幸（やすゆき）

この度、北海道・東北地区からご推薦を頂き令和6年度からの理事に就任いたしました一般社団法人岩手県PTA連合会会長の山下泰幸と申します。大役に身が引き締まる思いでございます。

さて、昨年度からの日Pの諸問題が未だ解決しておらず、メディア等で報道もあり、全国のPTAの混乱を招く現状に対しまして、昨年度から関わっている県の代表者として大変申し訳なく責任を感じております。日Pは全国の会員の皆様の支えがあっての社会教育団体です。理事として、日Pの諸問題の早期解決に向けて尽力しつつ、少子高齢化の時代に見合う事業を推進すると共に、子供たち、学校、PTAの多岐にわたる問題の対応策を先人の教えに学びながら、役員、全国の代表者、関係省庁と共に知恵を出し合い練って参ります。私は子供を中心とした教育環境が整備された日本を目指し、全ての人が笑顔溢れる未来となるよう精進して参る所存です。お力添えをいただけますと幸いです。

理事　清水（しみず）　敬介（けいすけ）

令和6年度公益社団法人日本PTA全国協議会 2年目理事を務めております清水敬介と申します。

少子化による会員の自然減少や日本PTAからの退会等もあり、会全体の予算も大変厳しい中、公益目的事業の在り方も含め、検討をしなくてはならない令和6年度であると認識しております。

今までの踏襲だけでは無く、新しい発想や見直しも含めて、日本PTAの存在価値を具体的に示す必要が急務であります。

今年度も改めて文部科学省をはじめ教育関係団体との関係の強化・連携を更に深め有益な情報を提供出来るように努めたいと思います。

日本最大の社会教育関係団体として全国750万人の会員の皆様の為、そして大切な子供達の明るい未来の為に活動して参りますのでどうか引き続きご支援・ご協力の程何卒宜しくお願い致します。

私自身、日本PTAに関わり6年目となり本年度で最後となりました。微力ではありますが、出来る事を精一杯努めて参ります。

常務理事　宿南（しゅくなみ）　洋一（よういち）

この度、常務理事に就任いたしました宿南洋一でございます。微力ではございますが、法人の発展、そして地域や社会への貢献に一層の努力を重ねる所存です。近年、私たちの取り巻く環境は急速に変化しており、特に子供たちを取り巻く社会課題はますます多様化・複雑化しています。そんな中、私たちは次世代を担う子供たちが健やかに成長し、広い視野を持って社会に貢献できるよう支援していくことが重要であると感じています。

当法人では、これまでも教育支援や地域社会の連携に力を入れてまいりましたが、今後はさらなる充実と支援の輪の拡大に努め、全国の各協議会、関係省庁、団体との連携も強化していきたいと考えております。子供たちの未来に役立つ活動を推進してまいります。

これからも皆様のご期待に応えられるよう誠心誠意努力してまいりますので、引き続きご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年度定時総会における宣言・決議

公益法人としてガバナンスを遵守した運営と、主体的・対話的な事業の展開と情報発信によって、家庭教育及び社会教育の充実に努めることを宣言し、令和6年度定時総会における決議としました。

令和六年度 定時総会 宣言・決議

宣　言

公益社団法人日本PTA全国協議会は、保護者と教職員で構成する日本最大の社会教育関係団体として、国が行う教育改革や子供たちを取り巻く環境整備に関する施策等に対し、積極的に意見・協議を行いながら、教育力の向上及び子供たちの健全育成に寄与してきた。

我々はこれからも、国全体の教育環境をよりよくすることを、教育関係団体や関係諸機関等とともに検証・議論することによって、子供たちの生き抜く力を醸成し、誇りをもち、夢を描き、ウェルビーイングの向上と共に、将来に希望のもてる社会づくりに貢献していくことが果たすべき役割であり、責務である。

また、公益法人としてガバナンスを遵守した運営と、主体的・対話的な事業の展開と情報発信によって、家庭教育及び社会教育の充実に努めるとともに、これまで以上に家庭・学校・地域が連携協力し、子供たちの健全育成と福祉の一層の増進を図り、社会の発展に寄与することが必要である。

ここに公益社団法人日本PTA全国協議会としての役割と責任を自覚し、組織の総力を結集し、次の決議の実現に全力で取り組むことを宣言する。

決　議

令和六年度定時総会における宣言に基づき、具体的目標として、次の事項を決議する。

一、子供たちの教育の原点は家庭にあることを認識し、加えて、学校教育・社会教育について理解を深め、子供とともに成長し、家庭における教育力の向上を目指す。

一、子供たちの教育環境の充実をより推進するため、関係府省庁や関係諸機関等との連携・協力を一層密にする。

一、子供たちの心身ともに健全な成長と、持続可能な社会の創り手の育成を目指して、社会の変化に対応した教育の改革に主体的に取り組む。

一、子供たちを取り巻く様々な課題の解決に努めるとともに、多様性を尊重し、「いのち」の尊さと「人権」の大切さを強く訴える。

一、子供たちが自然環境を守り、郷土に親しむ心を培うとともに、国際理解を深め、平和を希求する人の育成を目指す。

一、子供たちの安全・安心を社会全体で見守り、より良い生活環境づくりを目指す。自然災害に対する防災意識の高揚、デジタル・シチズンシップ教育の推進により、より良い社会環境への寄与を高める。

一、全国組織として、PTAの存在意義を再認識し、社会の変化に対応した組織運営や情報発信など活性化方策を構築し、その普及啓発を進める。

令和六年六月十九日
公益社団法人日本PTA全国協議会

令和6年度新役員の意気込み

理事　浦山（うらやま）　利博（としひろ）

全国研究大会川崎大会の実行委員長として、令和5年度から理事に就任しました。本大会においては、素晴らしい先生方とスタッフに恵まれ、令和6年8月、皆様のご協力ご参加のご縁を頂いて、ウェルビーイングと実践への想いを、実に楽しく発信・共有することが出来ました。ありがとうございます。

日Pを含め組織ありきのPTAになっては、様々な疑念が集まって来てしまいます。私たちの活力源は、何にもまして子供たちの笑顔です。子供たちの喜びもまた私たちの笑顔でしょう。その原点にこそ立ち返り、皆様と共に笑顔を広げて行く一人でありたいと思っています。子供たちが、明るく生きる強い力と公徳心とに満ち溢れ、将来、それぞれの道や方法で社会に羽ばたくことを願い支えて行きたいと思います。「ありのままで、ありがとうの心で、何でもやってみよう、何とかなるよ～」と、これからも子供たちと歩んで参ります。

理事　畠山（はたけやま）　佳樹（よしき）

今年度初めて理事となりました、関東ブロック推薦の畠山佳樹です。

さて、現在の日本PTAは、全国750万会員の為になる活動を展開できているでしょうか?時代の要請に合わせて変化する、求められる役割を果たせているでしょうか?全国の協議会に対して、真摯で誠実な対応はできているでしょうか?

残念ながら、さいたま市、千葉市が日本PTAから脱退し、全国で追随する動きが目立ち始めているこの状況が、その答えなのかもしれません。

しかし、脱退による組織力の低下は、発信力、存在感の低下を招き、子供たち、保護者、教職員のために世の中を動かすことが困難になります。この日本PTA最大の危機を脱するためには、全国の皆様からの信頼回復が急務だと考えます。今こそ日本PTAは、深い反省に基づき、現役会員の意見を尊重した公平公正で透明性のある運営に立ち返り、求められる役割を果たすべく、真摯な運営を行うべきです。

そのために私は、理事として、役割を全うしてまいります。

理事　髙城（たかしろ）　みさ

令和6年度、理事に就任いたしました髙城みさと申します。これまで協議会代表者として本会の活動に関わらせて頂いてきた中で、沢山の変化を肌で感じてきました。

新型コロナウィルス感染症対策で思うように活動ができなかった期間が明け、様々な事業が再開される中で、関わる人も、関わる皆さんの意識や全国でのPTAに対する捉えられ方も大きく変わりました。

未だ様々な課題が残り、変革が必要な部分もありますが、まずは、日本を代表する社会教育関係団体である本会の在り方を再認識し、そのうえで現状に合った組織を構築していけたらと考えます。その一方で変えてはいけないものもあると考えます。私自身、子供たちのためはもとより、本会に携わる皆さんにとって有意義な時間を創出できるよう努めたく存じます。自分自身がこれまで以上に本会に興味を持ち、研鑽を重ね、今何をすべきかを考え行動できるようにしていく所存です。力至らぬ点多々あるかとは存じますが、理事の一員として努力して参ります。

理事　森山（もりやま）　慎作（しんさく）

私のPTA活動の原点は小学校でのバザー販売です。ピカチュウに仮装した私は子供達の笑顔を目の当たりにし大きな喜びと幸せを感じました。単位PTA会長や市協議会会長を務める中、充実した学びの場、他校や市外・県外で頑張る仲間の姿など、これまで知り得なかった世界に触れ、更に活動への意欲は高まっていきました。

PTAには様々なステージやフィールドがあります。その役割を担ったからこそ得られる知識や経験があり、それを自らの家庭・学校・地域づくりに活かしていく、そこに私は大きな価値を感じています。決して楽しいことばかりではありませんが、誰かからの「ありがとう」が一番のモチベーションになっています。

自分を成長させてくれたPTAに恩返し・恩送りをするべく、日本PTA理事職を全うしてまいります。更なる学びや経験、出会いに大きな期待と希望を持ち、関わる全ての皆様への感謝の気持ちを忘れず、一期一会を大切に全力で活動に取り組んでまいります。

理事　溝口（みぞぐち）　憲治（けんじ）

中国・四国ブロック選出として理事に就任しました、山口県PTA連合会では副会長を務めさせていただいている溝口憲治です。

PTAの役員経験は、令和元年に単位PTAの副会長を務めさせていただいてから6年目、令和2年以降は単P会長として、また県P理事として活動して参りました。多くの会員の方がそうであるように、輪番により、たまたま理事となった“ただのお父さん”です。

日Pでの活動は今年が初めてであり、右も左も分からない状況の中での5カ月を振り返ると、“全国の代表者の支え”があってこその日Pであると感じています。

事業環境や事業運営、全ての面において大変な時期に理事を務めることになりましたが、これからも、代表者の意見・話し合いの場を大切にしながら、丁寧な合意形成が出来るよう努めることで、全国の子供たち、保護者・教職員のための日P本来の活動を進めていけるよう、その職責を果たしたいものです。

理事　宇田（うだ）　直人（なおと）

石川県PTA連合会の会長を務めております宇田直人と申します。私は全国研究大会石川大会実行委員長としての理事になります。どうぞよろしくお願い致します。

今年の元旦に能登半島では最大震度7の地震、9月には豪雨が襲い、たいへん大きな被害が出ました。その際には、全国から多額の支援金をいただき、本当にありがとうございました。

それから本当に大会を開催しても良いものか、皆で話し合ってきました。当初は話し合うことすら憚られる状況でしたが、できる範囲で開催しようということになりました。残念ながら能登半島では分科会を開催できない地域も有りますが、代わりに他の地域が手を挙げてくれました。今では、震災に遭った石川だからこそできる大会にしようという機運が高まっています。

こんな時にこそPTAは絶対に必要だとお伝えできればと思っております。皆さまからいただいた御恩に報いるためにも精一杯頑張りますので、応援よろしくお願い致します。

公益社団法人日本PTA全国協議会 推薦商品について

公益社団法人 日本PTA全国協議会 推薦

児童・生徒等の学校教育、家庭生活上価値が高く、広く利用促進普及させることが適当と認められる事業または物品を、協賛し推薦する商品です。また認定された商品には、「推薦マーク」を使用することができます。

■令和6年度推薦商品一覧表（令和6年10月現在）

1	企業名：	(一社)家の光協会
	商品名：	月刊誌「ちゃぐりん」
2	企業名：	(株)Gakken
	商品名：	学研まんがでよくわかるシリーズ「光ファイバーケーブルのひみつ」
3	企業名：	菅公学生服(株)
	商品名：	エスパー学生服上下
4	企業名：	ショウワノート(株)
	商品名：	ジャポニカ学習帳シリーズ（ジャポニカ、イラスト、宇宙、フレンド、キャラクター、福田）
5	企業名：	アルプスシステムインテグレーション(株)
	商品名：	InterSafe(フィルタリング及び関連するフィルタリングサービスの提供)
6	企業名：	(株)マガジンハウス
	商品名：	漫画 君たちはどう生きるか
7	企業名：	(株)Gakken
	商品名：	学研まんがでよくわかるシリーズ「大相撲のひみつ」
8	企業名：	(株)ノートンライフロック
	商品名：	「ノートン」シリーズ（ノートンのセキュリティ各種：ノートン360・ノートンIDアドバイザー等）
9	企業名：	BBソフトサービス(株)
	商品名：	詐欺ウォール
10	企業名：	(株)文藝春秋
	商品名：	文春まんが　読みとくシリーズ「電子顕微鏡　ここが知りたい!」
11	企業名：	(株)Gakken
	商品名：	学研まんがでよくわかるシリーズ「フードデリバリーのひみつ」
12	企業名：	(株)Gakken
	商品名：	学研まんがでよくわかるシリーズ「舞台照明のひみつ」
13	企業名：	(株)Gakken
	商品名：	学研まんがでよくわかるシリーズ「図書館のひみつ」
14	企業名：	エースチャイルド(株)
	商品名：	子どもセキュリティ『Filii(フィリー)』
15	企業名：	(株)Gakken
	商品名：	学研まんがでよくわかるシリーズ「海のひみつ」
16	企業名：	デジタルアーツ(株)
	商品名：	i−フィルター／i-FILTER
17	企業名：	トレンドマイクロ(株)
	商品名：	「ウイルスバスターシリーズ（令和5年夏〜令和6年夏発売予定新製品及びモバイル端末向け製品を含む）」
18	企業名：	(株)カスペルスキー
	商品名：	カスペルスキー プレミアム
19	企業名：	(株)Gakken
	商品名：	学研まんがでよくわかるシリーズ「皮ふとぬり薬のひみつ」
20	企業名：	(株)Gakken
	商品名：	学研まんがでよくわかるシリーズ「植物油のひみつ」
21	企業名：	(株)Gakken
	商品名：	学研まんがでよくわかるシリーズ「納豆のひみつ」
22	企業名：	(株)文藝春秋
	商品名：	文春まんが　読みとくシリーズ「空調　ここが知りたい!」

第46回　全国小・中学校PTA広報紙コンクール入賞校一覧

賞	小学校PTAの部	中学校PTAの部
文部科学大臣賞	<いそかぜ> 大磯町立大磯小学校PTA	<MATSUSHIRO PTA PAPER> 長野市立松代中学校PTA
日本PTA全国協議会会長賞	<仁和小学校PTAだより> 仁和小学校PTA	<みどり> 岩見沢市立緑中学校PTA
	<のぎっこ通信> 松江市立乃木小学校PTA	<堀江だより> 大阪市立堀江中学校PTA
	<東苑> 那覇市立城南小学校PTA	<でいご> 浦添市立浦添中学校PTA
日本教育新聞社社長賞	<GOGOえんざん> 福井市円山小学校PTA	<大銀杏> 八戸市立根城中学校父母と教師の会
	<広報みなみ> 糸島市立前原南小学校父母教師会	<いばら> 茨城大学教育学部附属中学校PTA
	<西池> 宮崎市立西池小学校PTA	<ひまわり> 西条市立東予西中学校PTA
教育家庭新聞社社長賞	<あかつき> 宇都宮市立西小学校PTA	<たがえし> 富山大学教育学部附属中学校PTA
	<学鐘> 安来市立十神小学校PTA	<清流> 安来市立第一中学校PTA
企画賞	<ひばかり> 長浜市立永原小学校PTA	<さくら> 長崎市立桜馬場中学校PTA
写真賞	<やしろ南PTAタイムズ> 福井市社南小学校PTA	<まほろば> 和泉市立南池田中学校PTA
レイアウト賞	<forêt> 泉大津市立穴師小学校PTA	<PTA会報> 北栄町立北条中学校PTA
佳作	<こだま> 旭川市立東五条小学校PTA	<福移> 札幌市立義務教育学校福移学園PTA
	<Smile> 札幌市立円山小学校保護者と先生の会	<わかば> 柏市立柏第四中学校PTA
	<城北> 名古屋市立城北小学校PTA	<あゆみ> 沼津市立金岡中学校PTA
	<ひがし白壁> 名古屋市立東白壁小学校PTA	<くすのき> 長久手市立北中学校PTA
	<あゆみ> 各務原市立那加第三小学校PTA	<佐屋中PTA新聞> 佐屋中学校PTA
	<クローバー> 京丹後市立かぶと山小学校PTA	<KK−PTA−TIMES> 京都市立京都京北小中学校PTA
	<ふじとPTA新聞> 東大阪市立藤戸小学校PTA	<野田中PTA> 大阪市立野田中学校PTA
	<PTAだより たいま> 葛城市立當麻小学校PTA	<星雲> 松江市立八雲中学校PTA
	<さくらばる> 宇美町立桜原小学校PTA	<北稜かわらばん> 香川県立高松北中学校・高等学校PTA
	<しおさい> 南島原市立野田小学校PTA	<Green9> 木城町立みどりの杜木城学園PTA
WEB版 日本PTA全国協議会会長賞	<ひよみなPTA　ブログ> 横浜市立日吉南小学校PTA	

■分科会
8月22日(金)13時30分〜16時45分

第１分科会【家庭教育】
小松市・石川県小松芸術劇場うらら

第２分科会【学校教育】
加賀市・加賀市文化会館

第３分科会【地域連携】
七尾市・七尾市文化ホール

第４分科会【人権教育】
白山市・白山市松任文化会館ピーノ

第５分科会【広報活動】
金沢市・金沢歌劇座

第６分科会【今日的課題】
野々市市・野々市市文化会館フォルテ

特別第１分科会【日本PTA担当】
金沢市・石川県立音楽堂邦楽ホール

特別第２分科会【文部科学省協力】
金沢市・石川県立音楽堂コンサートホール

■全体会
8月23日(土)　9時〜12時20分

石川大会は、石川県内広く６市で開催いたします。１日目の分科会会場がそのまま２日目の全体会会場となる分散開催を計画しております。２日目の全体会は、石川県立音楽堂コンサートホールをメイン会場として、他の分科会会場をインターネット回線で結び開催いたします。

石川県立音楽堂コンサートホール

大会開催にあたって

本年元日に能登地方を震源とする能登半島地震により想像を超える被災状況の中、被災地を離れて前例のない中学生の集団避難も行われました。少しずつ復旧復興が進んではいますが、地元を離れざるを得ない会員も少なくありません。このような中で私たちは、全国大会を開催すべきか、また、開催が可能なのか、県内市町の会長から意見を聞き協議を重ねました。当初は開催延期または中止の意見もありましたが、能登地区の会員から全国大会を開催したいとの思いが寄せられ、被災した会員に十分配慮した上で、全国大会を「開催する」こととなりました。

十分な準備ができないこともあるかとは思いますが、精いっぱい努めて参ります。皆様の石川県へのご来県をお待ちしております。

メイン会場となるコンサートホール内

石川大会　開催期間　令和7年8月22日(金)、23日(土)

ISHIKAWA PTA 2025

開催予告

第73回 日本PTA全国研究大会

第81回 日本PTA東海北陸ブロック研究大会